

河井弥八年表

和 歴	西 暦	年 齢	事 柄
明治10	1877	0	・河井重蔵の長男として誕生する。10/24
明治21	1888	11	・祖父弥八郎を亡くす。(享年54歳)
明治25	1892	15	・掛川高等小学校を卒業する。3/25
明治30	1897	20	・静岡県尋常中学校を卒業する。3/30 (旧制静岡中学校の前身)
明治33	1900	23	・第一高等学校を卒業する。 ・遠州学友会創立の発起人となる。
明治37	1904	27	・東京帝国大学政治学科を卒業する。 ・文部省実業学務局に入省する。
明治39	1906	29	・伊豆、土肥の鈴木要と結婚する。
明治40	1907	30	・佐賀県事務官となる。 ・貴族院書記官となる。
明治44	1911	34	・母ふきを亡くす。
大正 6	1917	40	・万国議院商事会議出席のため欧州へ出張する。ロシア革命に遭遇。
大正 7	1918	41	・法制局参事官を兼任する。 ・浜名湾遊泳協会第2代会長となる。～10年迄
大正 8	1919	42	・貴族院書記官長となる。
大正14	1925	48	・父重蔵を亡くす。(享年71歳)
大正15	1926	49	・亡父の残した「食糧問題に対する卑見」(小冊子)を出版する。 ・内大臣秘書官長となる。 ・東宮職御用掛となる。
昭和 元	1926	49	・侍従職御用掛となる。12/25
昭和 2	1927	50	・大正天皇靈柩を供奉を仰付られる。2/4 ・侍従次長兼皇后大夫となる。3/3 ・大礼準備委員仰付られる。6/20
昭和 3	1928	51	・昭和天皇大礼行幸行啓の供奉を仰付られる。10/29
昭和 5	1930	53	・皇后宮大夫兼侍従次長となる。3/4 ・予算委員仰付られる。10/1
昭和 7	1932	55	・帝室会計審査局長官となる。 ・静岡県育英会理事となる。
昭和 9	1934	57	・勲一等瑞宝章を授与される。4/29
昭和10	1935	58	・「培本塾」(農業指導者養成)の創設に関わる。
昭和11	1936	59	・宮内省を退官し、正三位叙位、瑞宝章を授与される。 ・財団法人培本塾理事となる。

和 歴	西 暦	年 齢	事 柄
昭和13	1938	61	・貴族院議員に勅選される。1/7 ※勅命によって選ばれた議員 ・報徳社副社長となる。2/24
昭和16	1941	64	・中央林業協力会副会長となる。 ・東遠明朗会設立・会長となる。甘藷、麦の増産運動を推進する。
昭和17	1942	65	・全国治水砂防協会顧問となる。
昭和18	1943	66	・貴族院において甘藷栽培救国について質問する。10/28
昭和20	1945	68	・大日本報徳社第5代社長となる。2/27 ・日本林業協会副会長となる。
昭和21	1946	69	・食糧対策審議会委員・中央社会事業委員会 憲法普及会理事 ・林政調査会委員、鉄道会議々員となる。
昭和22	1947	70	・静岡県地方区選出参議院議員に当選する。(3年議員)4/20 ・緑風会を結成する。 ・全国治水砂防協会理事長となる。1/22
昭和23	1948	71	・要夫人を亡くす。(享年61歳)
昭和24	1949	72	・中川根桃沢川砂防問題に尽力する。
昭和25	1950	73	・静岡県地方区選出参議院議員に当選する。6/4
昭和26	1951	74	・富士山頂帰属問題に深く関わる。 ・江戸時代の国学者、内山真龍(天竜大谷村の人)の贈位に尽力する。
昭和27	1952	75	・遠州浜における米軍試射場設置問題に尽力する。
昭和28	1953	76	・日本ボーイスカウト静岡県連盟長となる。 ・参議院議長に就任する。5/19 ・皇室会議議員となる。
昭和31	1956	79	・参議院議長を退任する。4/3 ・参議院議員任期満了 6/3 ・静岡県地方区選出参議院選挙に出馬するが落選する。7/9 ・全国治水砂防協会副会長となる。 ・文化財保護委員長となる。
昭和35	1960	82	・死去 7/21 (東京医科歯科大学付属病院) ・法名「徳翁彌天居士」 ・従二位、勲一等旭日桐花大綬章を叙位、叙勲される。7/21 ・天皇・皇后より祭祀料を下賜される。7/22 ・東京青山葬儀場にて葬儀行われる。7/23 ・掛川市民・大日本報徳社合同葬行われる。(於 大日本報徳社)7/31